



## ◆ 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、平素からお世話になり、大変ありがとうございます。

さて、当センターの事業につきましては、気象業務法による指定・登録法人としての業務（気象情報の提供、気象予報士試験、測器検定など）を中核としつつも、国際協力や気候等の研究の分野においても新たな展開を進めており、おかげ様で順調に推移してきています。これら業務の実施に当たっては、予報業務や測器製造にかかわる民間の事業者をはじめ、気象庁・気象研究所、文部科学省、環境省、国際協力機構（JICA）など、産官学の多岐にわたる関係者にご指導・ご協力を頂いております。

ここに昨年の業務を振り返りつつ、関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げたいと思います。

### 《情報提供》

はじめに、当センターでは、気象庁が提供する気象等の注意報・警報や地震火山情報等の防災気象情報、さらに静止気象衛星“ひまわり”や気象レーダー、アメダス等に代表される観測データ、数値予報等の解析・予測資料などを民間事業者等に配信するサービスを行ってきていますが、おかげ様で24時間体制のもと安定かつ迅速・確実にお届けしてきています。既に、何回かにわたりご紹介してきましたが、近年の情報通信技術（ICT）化や観測・予報技術の高度化などの技術基盤のうえに、防災・減災や社会・経済活動における気象情報への期待とニーズの高まりから、配信サービスの利用者数も順調に伸びてきています。昨年末には、主要な4つの配信サービスの利用者は延べ500者近くに、実数としても300者強となっています。

このような、気象情報へのニーズと気象庁による情報の改善の的確に対応するため、当センターでは計画的にシステムを更新してきています。昨年3月には「緊急地震速報配信システム」を更新し、気象庁による緊急地震速報の改善（巨大地震にも的確に対応するためのPLUM法の導入等）も含めてシステムを強化しました。国をあげて南海トラフ巨大地震等への対策が進むなか、当センターとしても防災・減災に貢献できるよう安定・確実な情報提供に努めて行きたいと考えています。

さらに、昨年4月には「ファイル形式配信システム」を更新し、利用者にご協力を頂きつつ、順次回線の切り替え等を行い、安定的な運用をしております。気象庁では昨年6月にスーパーコンピュータの更新を行い、数値予報モデル等の大幅な改善を計画的に進めており、順次「数値予報格子点資料(GPV: Grid Point Values)」等が精緻化し、データ量も飛躍的に伸びてきております。昨年更新したシステムにより、気象庁による情報改善の的確に対応し、利用者へのより安定・確実なサービスを確保することとしています。

### 《気象予報士試験》

気象予報士試験につきましては、前年より受験申請者は若干減少しましたが、6,522名の申請があり、321名の方が合格しました。気象予報士試験も、24年前にスタートしてから昨年8月で50回目となり、合格者も約1万5百人に達しています。引き続き、気象予報士の技能向上のため、各種講習会の開催や気象庁作成の研修テキストの頒布など、技術的な支援を行うこととしています。

### 《気象測器検定》

国内には、気象庁以外にも、国・地方自治体・民間等での気象観測施設が、気象庁に届け出されたものだけでも約2万8千か所あります。こうした観測所の気象測器につきましては、観測データの品質確保の重要性から必要な測器は検定を受けることとされています。当センターは、測器検定の実施機関として、毎年1万件を超える雨量計、温度計、風速計等の検定を行ってきており、本年度も、やや少ないものの昨年度並みの検定数で推移してきています。

### 《調査・国際協力》

調査業務としましては、熱中症対策のための全国の主要地点における気象等の観測とともに、夏季イベントにおける熱中症対策ガイドライン作成のための基礎調査などを行っています。

また、国際協力機構（JICA）等と協同して、発展途上国の気象機関等への技術支援を行ってきており、昨年も、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、エルサルバドル、モザンビーク等において気象観測・予報警報や地震・津波監視などの能力向上のためのプロジェクトを行ってきています。特に、昨年4月には、ベトナムの国家水文気象局NHMS(National Hydrological- Meteorological Service)等への技術協力として、『ベトナム国気象予測及び洪水早期警報システム運営能力強化プロジェクト』が3年半にわたる計画としてスタートしました《写真》。近年、多くの発展途上国が、台風や気候変動等の気象分野に加えて、地震・津波等の分野にも大きな関心を寄せており、我が国の知見・経験を十分に活かしながら、発展途上国の防災・減災に貢献したいと考えています。

#### 《気候研究推進》

一昨年5月には、地球環境や気候変動問題に研究面から貢献するため、「地球環境・気候研究推進室」を発足させ、文部科学省の新たな5か年の研究計画（統合的気候モデル高度化研究プログラム）に気象研究所との研究協力のもと参画しました。研究も2年目に入り、社会的に関心の高い台風の動向等、多くの成果をあげ、国内外の学会等で発表してきています。

国際的には、「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」において、2021～22年に向けて「第6次評価報告書（AR6）」の作成が始まっています。本プログラムの研究者2名もIPCCのAR6の執筆者(Lead Author)に選出されており、気候変動の予測から影響・適応にわたる分野において、本プログラムの研究者とその成果が大きく貢献することを期待しています。

いずれにしましても、これまで円滑に業務運営できましたことに関係各位に改めてこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

新年を迎え、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りするとともに、引き続き、当センターの業務へのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

#### 《写真》 国際協力機構（JICA）によるベトナム国家水文気象局（NHMS）における気象等の警報システムの運営能力強化のための専門家派遣（2018～21年）。

ベトナム気象局（ハノイ）における当センター専門家による地上気象観測に係わる技術能力の向上のための支援活動の風景。ベトナム気象局の露場は広く観測環境は良好で、また、他の発展途上国でも見られるように女性の活躍が目立つのが特徴的です。



露場での日照計の設置状況の確認  
左に百葉箱、右に雨量計



雨量計の設置環境や保守点検  
などの実地指導



地上気象観測のデータ処理や  
品質管理などの講義

（理事長）